



朝夷巡嶋記全傳卷之二

朝夷巡嶋記全傳卷之二

東都

曲亭主人編輯

遠山寺乃兎樓

山脚村の教草

初輯第三



却説腰越獸六も縣兵ホとぬく。濂倉ふりたり。其の阿三丸の爲体とて

かの條の奇異怪談首より尾まで。主の義盛は告へる。義盛は目も驚き

このやうく。鞆繪が靈魂稚兒は寅縁と故ホと返せ。さういふ定めの

笑みまき恥をきる勇婦と。このやういふ。怒りの子の

母のまのうらみ。其くせんとも。渠の情と起させ。さういふ

かういふもの。さういふ。その飛流梅。阿三丸と。其の

源本流退き。さういふ。そのやういふ。乳母が故郷。さういふ

あつらふ所の阿三九と捉へんと難くもあつた事と云ふ事今も
理多し通らぬ祟を受て人と成ふ事あれば唐山晋の文公が女子推
ゆるりある例多たあつた馳せる馬ゆ先づあつた事と云ふ事
あつた事と云ふ事と流るる塊の衛る事と云ふ事阿三九の恙も成
長せん秋の不
慈小畑と不慈るる親の事と云ふ神を志す事且く棄て再会の時と云ふ事
やんふふひえとて歎六ホといふ外台と退世が心は恙て入ぬ昔ぞ志のび
まのひは僧と抱たて鞠後がぬる経式漏せ追福此業のいとる事又他更
かのうりける事と云ふは葉ゆ阿三九の俱と恙多し松のこの日の下晡の安
房の白子ゆと云ふ夜と云ふ事舊里の事大緒の御事と云ふ事
まゝくつて木まゝくつて阿三九の松首ゆ終止し色色ふれ屋の虫の吉がぬか
妻のるる宿小促織の如し蟋蟀誰よつとと刺せと鳴く良人のけり馬は

あつらふ所の阿三九と捉へんと難くもあつた事と云ふ事今も
理多し通らぬ祟を受て人と成ふ事あれば唐山晋の文公が女子推
ゆるりある例多たあつた馳せる馬ゆ先づあつた事と云ふ事
あつた事と云ふ事と流るる塊の衛る事と云ふ事阿三九の恙も成
長せん秋の不
慈小畑と不慈るる親の事と云ふ神を志す事且く棄て再会の時と云ふ事
やんふふひえとて歎六ホといふ外台と退世が心は恙て入ぬ昔ぞ志のび
まのひは僧と抱たて鞠後がぬる経式漏せ追福此業のいとる事又他更
かのうりける事と云ふは葉ゆ阿三九の俱と恙多し松のこの日の下晡の安
房の白子ゆと云ふ夜と云ふ事舊里の事大緒の御事と云ふ事
まゝくつて木まゝくつて阿三九の松首ゆ終止し色色ふれ屋の虫の吉がぬか
妻のるる宿小促織の如し蟋蟀誰よつとと刺せと鳴く良人のけり馬は

和田の

因縁

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あつた事と云ふ事

あめさるやうやく。この子とわい。ちんちん。さきさき。たへん。報苦とせせ。い
 幸小追捕の出来。道々。まこと。一旦。諾ひ。送命。の叛。又。彼君の怨。冥
 賞縁。威徳。高た。和田。殿の。崇。少。の。及。殃。危。あ。らん。凡。貴。多。た。も。賤
 ちんちん。子の。立身。出世。成。庶。幾。さ。る。り。め。た。る。た。は。校。金。柄。と。り。も。水。飲。め。ぬ。農。工
 の子。お。せ。よ。と。く。愛。子。と。乳。母。小。賜。ま。り。謙。倉。君。より。かけ。ら。れ。し。追捕。の。兵。士。と。お。し
 ま。じ。し。る。母。の。冥。工。そ。ら。ろ。ゆ。後。ま。う。ね。く。怒。さ。る。よ。り。あり。て。恩。成。業。愛。を
 ぬ。を。さ。く。出。世。成。の。ゆ。め。の。欲。凡。慮。中。測。じ。し。その。ま。れ。か。く。も。あ。は。り。裏。か。く。ま。く
 奉。る。女。見。小。蔓。の。襦。袢。と。り。生涯。親子。の。恩。義。と。お。上。怒。の。く。遣。し。く。食。の
 病。の。愈。し。も。飽。ぬ。列。の。女。房。さ。し。謙。倉。君。奉。公。さ。せ。者。あ。ら。う。ち。ま。ま。と。麻。夜。の。う。ら
 寂。さ。さ。ゆ。懐。く。こ。ら。う。人。の。心。の。む。ね。の。口。の。む。ね。の。こ。も。ま。二。と。せ。あ。ら。う。三。年。の。ま。ま
 この。月。今。宵。ぞ。ひ。び。け。る。た。夫婦。が。再。會。刺。主。る。郎。君。我。さ。お。は。い。さ。う。わ。ら。せ。て

今より子とく。争ひ。の。み。天。の。賜。我。素。姓。を。同。在。謙。倉。小。二。と。争。ぶ。武。家。の
 郎。君。さ。し。東。西。と。ま。く。ま。く。微。賤。の。子。お。り。ゆ。め。の。定。ま。ら。う。死。後。命。を。い
 とも。吉。凶。の。糾。る。繩。の。如。謙。倉。へ。召。さ。し。て。も。病。ゆ。く。早。世。せ。む。め。の。吉。の
 凶。は。え。又。村。落。小。人。と。さ。り。て。も。後。竟。は。度。跡。る。が。な。ら。め。の。こ。ろ。た。の。吉。の。人。異。る。る
 富。美。と。願。う。く。後。ど。この。子。お。り。ま。く。が。夫婦。老。樂。は。終。成。執。ら。ば。今。春。三。月。の
 幼。勞。の。お。ら。る。を。用。る。ら。後。争。ま。ぬ。と。他。の。ゆ。め。の。い。の。葉。の。ひ。の。か。の。ま。り。こ。る。夫。乃
 あ。ら。う。こ。ら。い。を。お。ら。る。や。安。堵。と。夫婦。が。同。小。阿。三。九。と。お。せ。く。添。乳。の。昔。枕
 旅。路。の。疲。勞。を。果。く。さ。さ。が。小。長。た。夜。と。も。小。送。は。蘊。る。物。活。と。て。あ。ら。う。こ
 明。し。る。その。樂。の。波。さ。り。さ。ら。も。この。豊。六。も。大。儲。小。世。と。累。さ。る。村。長。の。い。人
 祖父。の時。故。あり。く。職。め。ら。る。且。田。地。を。喪。ひ。いと。貧。く。ら。う。り。あ。け。し。し。の。昔。日。ま
 家。子。ら。る。ま。人。悔。ら。ま。一。村。の。氣。會。畊。作。の。後。合。め。必。渠。我。招。れ。よ。と。さ。し。古。の。美

先例同くあり。素よりその人となり。貪まれば痛む。賤まれば會す。例引く。非は我否。理を推す。不義を諫め。勢ひの中。憚らざり。利は後とも。後らば。いづりか。ふさふさ。只一柳のあゆみ。志は演し。その鞭直剛。腸は感服。そののあり。又その才のまさる。我媚く。只かの。この。怜悧。息は。あひ。が。嗚呼。と。て。穢る。りの。と。亦。ま。る。ま。け。り。間。踏。は。さ。て。お。た。つ。次。の。日。み。る。し。ふ。豊。六。の。鎌。倉。の。再。て。追。捕。と。お。け。ら。ま。さ。く。阿。三。九。と。索。ら。う。と。あ。る。べ。と。あ。う。た。ん。と。ふ。う。く。は。親。護。て。彼。稚。見。と。門。へ。出。さ。ざ。り。有。一。日。又。あ。ら。あ。う。幼。稚。と。も。反。逆。の。餘。勢。の。あ。り。の。あ。ら。あ。一。日。あ。ら。あ。と。も。舍。藏。ら。る。後。難。脱。る。べ。う。も。あ。ら。あ。と。渠。は。さ。は。勢。小。の。あ。ら。あ。恩。長。ゆ。り。て。子。と。は。る。と。も。これ。は。つ。を。り。の。咎。や。あ。る。追。捕。の。兵。士。は。つ。ま。て。逼。ら。ば。時。宜。小。よ。り。と。稚。見。と。逸。子。と。も。又。遮。與。さ。ざ。り。と。も。只。今。と。決。ま。り。熱。心。と。且。我。隠。ま。り。却。人。は。疑。ま。ん。を。更。さ。ら。う。と。た。の。あ。ら。あ。と。名。地。は。ひ。え。せ。い。が。誓。不。

い。ゆ。と。そ。の。あ。ら。あ。と。せ。り。是。よ。り。又。人。小。隠。さ。ざ。り。阿。三。九。の。丸。と。陰。死。く。阿。三。九。と。名。け。り。昔。の。珠。と。慈。む。未。婦。が。種。愛。大。く。う。つ。は。都。丸。里。人。小。頼。子。と。い。つ。の。程。ゆ。稚。見。と。養。ふ。と。は。と。同。り。の。あ。ら。あ。上。総。入。遣。し。る。女。見。小。葛。又。兄。の。あ。ら。あ。彼。と。此。と。あ。ら。あ。人。は。告。げ。の。面。あ。せ。な。ま。ら。都。丸。人。ゆ。由。隠。し。る。この。比。小。葛。又。兄。共。又。東。金。こ。ら。あ。遣。せ。し。その。養。家。は。故。あ。り。と。此。は。猛。は。い。と。と。真。し。か。う。小。説。示。す。そ。の。殊。さ。ら。あ。ら。あ。と。和。主。が。長。兄。病。著。切。羽。通。り。劍。刀。身。ゆ。も。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。子。と。も。と。棄。捨。が。如。く。あ。ら。あ。人。小。頼。子。と。も。男。見。の。鎌。倉。小。給。事。せ。し。母。成。は。も。と。う。く。還。ゆ。と。智。恵。才。字。の。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。和。主。が。正。直。の。只。は。宿。持。神。と。も。の。授。け。さ。せ。る。小。頼。子。と。も。あ。ら。あ。と。今。愛。も。あ。ら。あ。日。の。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。老。て。の。後。は。世。間。小。子。と。も。あ。ら。あ。と。仇。ゆる。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。人。毎。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。と。疑。ふ。の。あ。ら。あ。と。あ。ら。あ。と。

その年暮る。春もろく。ふなり。ふけきと。阿九と。うせと。鎌倉。入り。白子の。淡波。なれ。風の。候り。も。ゆき。後。豊六。菜。ひ。あ。わ。子。と。慈。阿三。部。野。嶋。や。腰。越。六。を。叱。て。懲。り。大。人。坊。う。れ。ら。母。の。灵。馮。く。假。ぬ。の。せ。り。の。る。ま。再。さ。い。る。舉。動。を。其。後。の。健。ろ。る。と。程。々。病。お。似。て。四。五。才。ま。及。び。て。筋。骨。逞。く。力。づ。れ。く。同。庚。ち。る。辰。子。ゆ。身。長。一。丈。三。寸。け。り。ゆ。く。も。豊。六。菜。ひ。其。母。の。親。なり。と。思。ひ。小。鹿。の。角。の。束。の。間。の。葛。根。と。の。か。と。考。心。自。然。の。あ。り。て。親。の。と。せ。ぬ。物。る。ま。欲。と。く。む。つ。く。と。成。せ。ま。と。苟。且。の。裁。と。ゆ。と。田。植。草。刈。に。好。ま。で。竹。馬。と。乗。ま。じ。菴。小。弓。印。地。打。細。引。る。と。え。く。日。と。暮。せ。豊。六。ハ。こと。や。ま。と。寵。愛。く。葉。ひ。私。語。や。氏。より。育。と。俗。出。以。て。実。の。生。枝。ハ。花。より。あ。ら。る。人。ハ。教。ふ。り。め。の。城。農。父。の。子。と。く。阿。三。部。は。字。せ。は。阿。三。部。の。中。入。と。

る。と。借。る。べ。た。と。る。び。や。か。家。究。く。寒。し。の。か。と。も。夫。婦。三。び。乃。食。之。減。し。二。重。の。衣。孤。單。ゆ。く。由。渠。お。学。せ。ん。と。思。ふ。く。志。々。と。も。る。早。く。今。より。これ。ら。の。用。意。よ。こ。さ。る。嗜。る。酒。狐。禁。る。ん。お。ん。由。又。さ。さ。る。と。の。拵。才。と。せ。ば。や。と。正。首。お。禪。と。く。ち。占。辰。そ。の。勢。に。あ。り。や。夜。の。目。と。合。音。は。織。績。を。ゆ。り。る。お。り。細。を。早。夕。の。烟。の。價。の。外。又。入。る。と。の。る。う。と。び。や。と。愉。く。意。つ。身。下。り。夫。婦。力。と。戮。く。片。响。由。お。せ。ば。阿。三。部。が。八。才。の。春。滿。祿。乃。山。寺。へ。遣。し。く。お。智。さ。せ。学。問。さ。せ。親。の。安。否。と。問。ん。と。く。り。里。へ。あ。る。と。あ。れ。い。豊。六。ハ。笑。顔。成。ん。せ。ば。い。と。叱。り。と。激。し。く。追。く。さ。び。と。い。ふ。と。朝。も。る。よ。母。恋。し。と。思。ひ。つ。も。後。竟。お。山。と。り。ま。と。の。朝。の。世。の。人。我。友。と。び。つ。の。と。ま。お。り。その。才。乞。う。と。後。年。十。四。五。に。及。び。て。道。よ。こ。け。登。り。く。蕙。蘭。の。園。よ。は。ひ。和。漢。の。書。と。涉。獵。く。古。今。の。治。乱。を。通。す。

しり。老くともその性よく。武藝の嗜む所文ありとも武の疎く車ありて片
輪はま。實は送恨のときとの時よとやあむわく。人ゆら言ひ。このびり。また
つる。とまればこの山の麓村は健田秀信といふ武士の浪人ありけり。大い
二年の冬十二月人の終らふよりて鎌倉の管中めく替まて。上様は平廣
常が家臣なり。主君廣常終死の後二君お仕と成願り。上様去て安房小
赴た麓村は僑居し。領主の家臣郷の仕役亦兵法武術の師範して。このと
ゆふも世に後る。その性老實あり。猶り飾らざり。又利成先はては戸を張る。と
妻もろく子もろく。朝夕の薪水一僕に任まる。固より一年三個月貯
禄をた成患とせば信とあり。弟子と守りて。成りぬるあり。阿三郎はこれ
アそとつ頻は暮りて。霎時ゆら城に潜る。秀信が宿所小赴た名簿と
投對面とを志成演る。秀信を尋と。一様お及と領諾せり。ごして。

よりて。阿三郎は尋ねぬと只管ぬ。志成運ぶのうら。又。阿三郎の関越のちて
健田が刀法と習ふ日いと稀る。自然とゆるる道る。借ふ一年。秀信より
あ。その師の舌は巻る。りふ念地上建る。けり。秀信はこれと。阿三郎
軍学の秘訣劍術の奥義。むらも漏さば傳授せり。阿三郎は。大踏。阿三
郎が母葉も持病の痼積日ゆ。長死病著。小外。曲。六。寺。小。結。末。て
ら。子。小。縁。由。と。告。す。て。一。も。ち。の。が。ひ。む。ら。よ。火。も。打。水。成。の。汲。片。の。小。妻。と
み。と。着。病。ア。二。番。草。も。抜。あ。び。田。の。瘦。細。荒。る。の。い。ふ。と。も。せ。ん。と。さ。る。は。バ
師の坊はゆえあひく。けり。彼が力の眼成賜ふて来つる。さうと
ゆへ余危きと。は。さ。う。肉。は。借。り。うち。出。る。病。る。ま。速。め。の。食。事。
師。い。ふ。と。ま。の。の。よ。成。く。わ。け。て。け。り。さ。ら。ん。と。い。ふ。自。然。に。草。
め。づ。ら。る。ぬ。あ。る。と。い。れ。進。せ。せ。れ。な。ま。あ。る。と。い。ひ。さ。け。と。色。を。

兵を焚
く秀作
阿三郎
てむむけと



草言
初巻
老二

月
夜
の
静
け
さ
し

逸とく去去ぬ阿三郎の母のり。ゆゆゆ果は宵渡と。そがまき芭と引提。方丈へ系やん。又が口状と演。住持も又これと禁ぬ。病む母ゆとて二囊の葛のこのり。あどとどとど。方の暇と賜。阿三郎と遠く。札乃。又或推累。後夏冬の夜。ゆるとも。一紙。脊負つ。住持。二年来の教。謝。師兄道人。木小辞。親里へ。還る。武藝。乃師範。健田。口外。安不。同母の病著と看。俄頃。親里大階へ。告。秀他。出迎。技術。社言。公。里。還る。研。孝養。暇。て。技術。社言。切。小任。せ。疎遠。少。選。譚。ひ。多。日。る。飯。卓。と。下。透。引。對。坐。湯。と。勸。め。葛。の。袴。の。後。推。印。形。端。と。忙。死。折。と。あり。

心小足。成。と。む。と。孝。子。と。苦。う。小。他。と。世。の。富。と。あり。の。小。只。入。と。贈。る。小。財。と。用。に。道。ある。の。の。辭。成。り。て。き。この。月。ア。ろ。日。来。よ。り。その。骨。相。と。親。て。老。ぬ。和。殿。の。老。農。微。賤。の。の。子。小。いと。惜。き。人。表。入。加。梅。この。年。来。氣。子。駭。あり。と。い。へ。と。も。上。建。の。速。る。和。殿。の。如。れ。の。終。る。に。僅。一。年。あり。は。て。兵。書。武。術。の。奥。義。と。究。め。その。器。その。量。白。地。と。老。少。と。り。く。の。を。た。これ。の。及。ぬ。所。あり。考。れ。と。も。是。や。く。傳。授。せ。の。の。只。一。人。小。敵。ま。る。の。之。研。云。士。率。の。武。藝。の。大。將。の。人。ゆ。り。要。る。堅。き。武。權。を。折。た。一。陣。小。と。む。の。と。士。率。の。勇。と。い。ふ。又。謀。と。帷。幕。ふ。め。ら。じ。勝。と。幾。千。里。小。決。と。て。武。大。將。の。勇。と。い。ふ。和。殿。其。勇。力。あり。い。ま。ご。用。る。所。な。ま。は。る。の。力。の。却。え。下。の。武。大。將。何。れ。の。く。ま。る。と。る。と。和。殿。の。打。石。究。く。強。く。打。る。と。た。骨。碎。け。腦。破。く。心。地。ぞ。さ。る。ち。く。た。比。の。小。熟。く。斬。り。力。と。用。ひ。ね。と。も。打。振。り。と。た。り。

必鳴る。これと必死の豫てなり。その機力あると必死なり。現力あるゆへに。
 用ひざる。その必死を智恵あるゆへに。又如ける。莫邪が劍中唐にまじり。
 錯て二葉の草の切色。韓信が智申用ひざる機は臆く。竟小益は力。
 智の奴ある故。智あるゆへに入を使ひ力ありゆへに入を使ひ。和服ぶつら
 力とこのまら。必死に使をる。又只匹夫の勇は誘ふ。後竟小殃危を招ん
 ことが贈め。則とる。大刀と佩は。何の爲ぞ。人死破へ死ゆへ。あやと原
 是の身の衛らん。故と傳燈録は。活人劍あり。殺人劍あり。活人
 劍とぬむゆへに。仁義と以城郭と孝悌と。甲曹と。礼智の大刀と。腰
 佩忠臣の馬は。驛と不義と討非礼と正。民の士炭狐救ふをり。戦へに必
 捷攻め。必取り。向ふ所。竟小敵あり。又殺人劍を好むゆへに。采利は。以城郭
 と。勇悍と。以甲曹と。破忍の大刀と。要小。佩貪欲の馬小。驛と。人死破ると
 草の如く。血と泣ぐ。正雨の如く。怒ると死に。戦ひ。勝ると死に。掠奪の刑せられて
 休む。夫兵凶器なり。奇死出し。謀と没説と。敵と誘ひ。城と接き
 人と屠て。下り愉しと。するゆへに。あやと。孫氏が。兵書と。学ぶゆへに。
 是が。と。あや不仁と。昔と亦悲しく。や。諸葛亮が。忠信あり。人難る
 ちんちん。死。あや。その。韓非子。小抄。死。後世。三。瑕玃と。は。あや
 ちんや。其秀。他が。如。勅。兵書と。講。小。大刀を。舞。
 子。取。口。と。餽。小。世。送。の。顧。治。世の。軍。學。と。佛。經。医
 書。小。相。似。り。あや。古。人の。確。論。あや。尤。め。死。說。あや。こ。つ。は。
 小。講。い。づ。小。こ。と。公。學。あ。び。て。日。と。や。と。ち。あ。ゆ。の。も。あ。は。
 戦。場。小。臨。ま。び。づ。う。れ。と。試。あ。何。と。あ。その。可。あ。人。所。云。地。獄
 天。堂。と。ん。る。う。る。く。こ。づ。う。小。俗。談。說。法。し。の。病。者。を。治。せ。し。く。

みづから学医と稱するが如し。さうしてこそ其れ徳をむすぶ武の道なき。あつ小癩
 せん廢鼓の皮の貯がまの急症と救ふよりなう。春平とて。武とて。其れ
 遂に非常な敬言に口。一方は偏らざり利害得失を辨むるもの。武道の
 達人といふ前の中既に立止む。人死破らんとはするもの。あつは却傷らる
 おのれ破らる下とてするもの。力と術を人死制す万能ありといふもの。一はの
 平たよるはとては壁言ふたよるもの。こゝにや高たよるはとては人の落
 りやるとあつて迷ひその足戦へて駐らむ心候既小騷かしてちとて。こが
 てか。足中が隨ゆるるらび。こゝにその高たよるはとては熟なる左松番匠の類へあつて
 百丈の稍小登り。凌雲の棟とまよとて。高たよるはとては高き城を忘後谷とて
 事代作を彼が智の勝はよるはとて。こが器の成たよるはとて。こゝにその熟なる
 熟なる又その心の乱るると乱らるはとて。あつは武術中又こゝに小似たり。未熟
 のの難小臨敵然んそ苟も脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 意馬を狂しく。こが足中が隨ゆるらとて。あつは脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 こゝに異難小臨て難とては敵然んそ苟も脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 下小ぢらあつて。その意馬と騷せむ。あつは脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 悟道その言の異なること。武術の奥妙もあつて。こが齡傾死ぬ和敵の外は
 徳のほ和敵年いと少きこと。志を殺さむとて。や尤才小至り。あつは安房
 四郡のいふこと。天下小敵るらとて。惜るる平族西海の水泡と消え春衡
 衣河小汚名を流とて。四の海を異小属とて。人死用る時小あつて。千里を
 走る駿馬も伯樂小遇さむ。老とて。賦咏の中は死き。こゝに又天より命を
 人世の福も春平の民とて。これよまはるるありある。才器力量ありといふこと
 及びつら頼る心候らる力と全するところ。光を埋む徳を蘊む。親よつらあつて

みづから学医と稱するが如し。さうしてこそ其れ徳をむすぶ武の道なき。あつ小癩
 せん廢鼓の皮の貯がまの急症と救ふよりなう。春平とて。武とて。其れ
 遂に非常な敬言に口。一方は偏らざり利害得失を辨むるもの。武道の
 達人といふ前の中既に立止む。人死破らんとはするもの。あつは却傷らる
 おのれ破らる下とてするもの。力と術を人死制す万能ありといふもの。一はの
 平たよるはとては壁言ふたよるもの。こゝにや高たよるはとては人の落
 りやるとあつて迷ひその足戦へて駐らむ心候既小騷かしてちとて。こが
 てか。足中が隨ゆるるらび。こゝにその高たよるはとては熟なる左松番匠の類へあつて
 百丈の稍小登り。凌雲の棟とまよとて。高たよるはとては高き城を忘後谷とて
 事代作を彼が智の勝はよるはとて。こが器の成たよるはとて。こゝにその熟なる
 熟なる又その心の乱るると乱らるはとて。あつは武術中又こゝに小似たり。未熟
 のの難小臨敵然んそ苟も脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 意馬を狂しく。こが足中が隨ゆるらとて。あつは脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 こゝに異難小臨て難とては敵然んそ苟も脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 下小ぢらあつて。その意馬と騷せむ。あつは脱せんとはする左心丹田の下小ぢらあつて類は
 悟道その言の異なること。武術の奥妙もあつて。こが齡傾死ぬ和敵の外は
 徳のほ和敵年いと少きこと。志を殺さむとて。や尤才小至り。あつは安房
 四郡のいふこと。天下小敵るらとて。惜るる平族西海の水泡と消え春衡
 衣河小汚名を流とて。四の海を異小属とて。人死用る時小あつて。千里を
 走る駿馬も伯樂小遇さむ。老とて。賦咏の中は死き。こゝに又天より命を
 人世の福も春平の民とて。これよまはるるありある。才器力量ありといふこと
 及びつら頼る心候らる力と全するところ。光を埋む徳を蘊む。親よつらあつて

孝と盡。友と交る小信を以て分を守りて。生活は懈らざる。これより後、學
 問より和敷壯年小至る。その勇心才はまさしく。この在ふこと。且て其誠ひ
 勉めんと。人実情を色あられ。言みる道理は逼りて。阿三郎之感
 涙の坐小膝。はなれ。且。鼻うち。け。ひぬ。月。あ
 師恩今日の教誨生涯あるべし。又。家。病。起。母。父。が
 齡。小。勤。の。そ。ち。を。ひ。て。い。は。實。小。賢。察。せ。る。如。く。負。う。う。う。親。又
 代。は。生。活。不。暇。る。と。お。は。は。郡。又。あ。り。る。が。う。が。師。の。安。否。と。同。じ。あ。る。べ。し。
 こ。の。お。る。と。ぬ。と。ふ。い。あ。と。家。の。艱。か。ら。り。て。お。の。が。や。め。た。う。ん。お。で。許
 さ。せ。め。と。の。ひ。あ。む。頻。は。嗟。嘆。を。ひ。ひ。秀。作。は。く。改。然。と。掉。ひ。る。く。と。ま。え
 僻。る。之。目。今。も。ひ。つ。つ。と。く。孝。養。と。生。活。は。暇。を。た。と。あ。や。は。枉。て。師。の。安。否。と。同。へ
 と。の。教。へ。終。る。る。た。り。の。親。の。あ。ら。休。ん。ぬ。ふ。う。や。胡。越。の。て。く。なる。と。と。

今日は何とも思ふぬ。只。勤。時。運。侯。名。と。揚。家。起。し。ぬ。の。外。ハ
 一。毫。も。る。ま。り。た。ら。は。長。劫。希。し。時。と。親。し。く。人。の。子。を。苦。め。り。家。母。の
 今。の。し。と。思。ひ。び。く。ま。ひ。ら。め。ひ。果。つ。あ。り。ぬ。と。い。は。し。立。れ。は。阿。三
 郎。の。感。謝。小。信。の。恭。々。別。致。告。紙。包。と。脊。負。つ。遠。く。出。る。秀。作。は。その。後。に
 跟。を。折。戸。口。や。立。出。り。眉。上。ふ。ひ。ひ。背。負。の。足。力。を。過。小
 こと。目。送。り。

初輯第四

濱宿の館の蒲黄
 修善寺乃走湯

さ。は。小。彌。倉。の。和。田。小。太。郎。義。盛。数。度。の。軍。功。ゆ。り。て。左。衛。門。尉。補。任
 甘。ん。建。久。元。年。十。一。月。十。日。兼。て。侍。所。別。當。と。う。け。の。る。別。當。職。ハ。拜。任。し。前。々。補。任。は
 京。都。に。て。奉。仕。せ。り。親。族。ま。と。く。昵。き。ひ。他。門。の。ま。の。う。等。困。る。當。家。の

敏旨早孫の榮達よふ憑しくぞんえはけ盛盛彼ふつけ此ふつけても阿二九が
 るのそむひかれしとさつじとさつそよひで岩間の昔清水源遠くころれ
 ても。獨々ぬの秋後竟は環の目のなることやとあふむりみ果敢るも懸る
 手送送りけり時小建久四年秋八月十日あまりののるるべし鎌倉中騷動して
 人みる東西ふ奔走し今合戦さまりぬと罵騷ぐと大さかふを緯の虚実の
 定らちつと後と盛盛のまむりもあふき宮中弑守護せんとく大紋の下中身甲して
 烏帽子の初と結びあむむとや縁起は立止まらば馬僕がさるる横さぬは牽
 よの馬は内りとうち跨つぬのども続けと鞭状あげく墓地は馳多りどんれが
 佐木畠山八田下河辺千葉小山の餘眺近の鎌倉武士みる宮中守護する
 人馬整ととと迎つべうもあふきとあれとも宮中へ異はとやびえらる盛盛や
 心ちのめくむり角門よりさみへり遠侍小袒候らん日暮て衆皆退散せり

斯俄頃は恩劇く縁故縁尋むる幕府頼の舎身軹頼朝臣隠謀の止あり
 とく伊豆の修禪寺へ推閉られその家臣橋太左衛門ホ濱の宿の館小権竜正
 討ひの軍兵と血戦く討死とあふきととも参州範頼ぬらん左典義朝
 朝臣の六男之遠江州蒲の郷は生と多ひ一は蒲冠者といひたり源家再興の
 たりめより東軍よせ加り幕府の寵用斜るふとさむぶ連枝の義とりて
 平家追討の大將軍とつけあり家身九郎判官義経ぬらともみ軍功あり或は
 湖東は義仲と討滅更小屋嶋は平族残塵よせし五年の苦戦は身命を擲
 三軍小將とく敢士率は傲下を進むところ至ところ必あつ使者とく幕府の
 旨と伺ひ擇むらとく忠よせし士率弑得別礼儀を正し老輩弑敬ひる
 その異見と向さるをわく人とあつ老實めく慎むらとく忠よせし士率弑敬ひる
 とも市は三虎とあふき西海の使者幕府よせしとく範頼の書と呈さる

毎に謙君殿より厚く笑ひ。左右と見え。長怪の動も。さかたの才学。先よ
 志く予が旨を向と稀之頼朝とて。惴後ハ眼代ハ差副。老輩。孤侮。て。元
 る。んと推量せり。又頼朝ハ彼と似せ。久。兵杖。握り。る。あ。む。り。色。功。は
 誇ら。予。敬。ふ。と。め。め。如。張。り。た。り。の。あ。ら。び。や。と。只。官。賞。嘆。を。多。ひ。り。の。は
 頼。小。蒲。殿。頼。三。河。の。國。を。任。せ。り。元。暦。元。年。六。月。西。國。静。謐。の。後。年。十。月。謙。倉。小
 倉。向。く。濱。の。宿。小。倉。を。め。り。金。葉。玉。枝。と。め。て。を。さ。さ。り。て。妻。子。肉。墓。乃
 盤。飽。き。士。卒。炎。堂。の。熱。死。成。志。る。頼。朝。素。より。篤。實。小。し。て。此。も。野。心。あ。ら。う。よ
 め。後。と。忌。諱。の中。小。倉。を。宣。く。禍。と。避。る。の。思。慮。は。ひ。く。く。を。後。者。降。伏。し。て
 傾。け。ま。う。の。由。も。も。り。け。る。小。倉。今。茲。建。久。四。年。夏。五。月。謙。倉。の。右。大。將。於。藍。沢。富
 士。野。に。將。倉。せ。んと。駿。河。路。へ。赴。た。る。小。倉。中。の。留守。と。り。て。犯。れ。ぬ。と。疑。さ。れ
 たり。志。つ。め。この。月。廿。八。日。の。夜。曾。我。十。郎。祐。成。の。亦。五。郎。時。致。と。も。小。倉。士。乃
 神野の御旅館へ推し。く。父の仇。三。藤。祐。経。殺。害。し。刺。所。寢。所。ち。く。乱。入
 せ。り。野。の。人。死。害。ひ。る。狼。藉。の。為。体。謙。倉。へ。せ。り。元。九。日。の。真。夜。中。に。り。野。第
 一。番。の。注。進。も。緯。の。お。巨。細。る。る。宿。寢。の。首。侍。本。の。頼。末。と。あ。は。は。只
 今。敵。の。よ。り。如。く。劇。死。ひ。く。罵。り。駈。け。ハ。頼。朝。と。も。法。法。ん。と。く。遠。侍。へ。ま。り。出
 人。人。劇。駈。ぐ。幕。下。ハ。失。さ。せ。め。め。も。頼。朝。と。も。の。死。る。で。あ。り。や。ハ
 あり。と。と。声。き。せ。り。制。し。め。り。も。人。も。駈。死。立。る。癖。を。と。り。耳。ゆ。を。後。て。あ。け。さ。る。お。り
 第二。番。の。飛。脚。到。来。と。祐。成。ハ。大。刀。折。て。仁。田。四。郎。忠。常。と。頼。朝。時。致。を。捕。捕
 ら。せ。り。昔。希。下。ハ。恙。き。り。し。り。と。分。明。と。あ。り。と。入。合。せ。り。や。く
 頼。朝。後。に。件。の。越。後。謙。倉。殿。聞。言。く。是。より。氣。色。快。く。原。来。頼。朝。自。立
 の。志。あ。り。の。ん。よ。や。宿。侍。本。を。推。詰。ん。る。わ。つ。ま。と。も。頼。朝。へ。も。あ。る。と。い。は。れ
 たり。と。の。後。言。え。努。由。あ。り。と。近。臣。本。宣。ひ。り。が。六。月。の。七。日。小。倉。

日 月 記 卷 六

ありあつても参判さんぱんを對面たいめんするは宿の館へ追退おひきして出仕しゅっし被承へいじやうめりひ
 ちふ宛頼わんらいのちこそ心こころひひ。終つひて逆さかむたれり。或あるは陳ちんがさうさせぬと
 る海并うみやう容ゆるるりける。この故ゆゑは輓頼わんらいの三伏さんぷくの熱あつた日ひも戦いくさ兢こころとくも。通水つうすい
 踏ふみむ。閑居くわんきよの庭にわは秋あき秋あき迎むかへ。腸はら秋あきむりちのま。い。と。熱あつたは。壺ひら子こて有あり日ひ
 一通いつぱうの誓言ちげん文ぶん式しき書しよや。大夫たいふ属ぞく重じゆう能ねいと使者しやうとく。宮中きゆうちゆうゆとせ。因よ前ぜん
 司し廣くわう元げんととく。進しん見けんととく。謙けん倉そう殿てん御ご見けんまる。小せう文ぶん面めん是ぜい
 殷いん熱ねつあまとも源げん輓わん頼らいと書か言げんる。紙し各かくめりひ。源げんの字じ載ざいと。二に族しゆくの儀ぎと
 存ぞんする。牧ぼく渠けいよ。分ぶんは過かり。記き精せいの失しつは。あ。ど。や。この義ぎを使者しや小せう正せい
 と。と。仰おほさ。廣くわう元げん仰おほの。越えつ紙し重じゆう能ねい小せう使しく。則すなは陳ちんと。主しゆめてひ
 参判さんぱんへ古こ左さ曲きよく。船ふねの。ち。子この。草くさ下げの。連れん枝しの。論ろん。元げん曆れき元げん年ねんの
 林りんの。比ひ平へい家け追お討うちの。使しと。上じやう洛らくせ。と。兄あに弟てい輓わん頼らいと。西せい海かいは。追お討うち

使し遺いは。文ぶん奏そう開かい志しひ。官くわん府ふは。載ざいら。参判さんぱんの。分ぶんと
 起おこす。自由じゆういの。儀ぎは。と。彈だんる。氣きと。か。け。再またて。何なにと。仰おほさ。て。上じやう重じゆう
 能ねいを。ひ。難なんき。及およぶ。紙しの。輓わん頼らいの。劇げき意いひ。老らう堂たう稿かう太たい
 左さ衛ゑい門もん尉ゑい高かう保ほう大たい夫ふ属ぞく重じゆう能ねい梓し治ち部ぶ。右みぎ友ゆう江かう瀧たき口くち。人ひと廣くわう通たうの。才さい三さん二に
 廣くわう光かう當たう麻ま太たい郎らう武ぶ弘かう石せき取と長ちやう。緯ゐいの。利り害がい以い回かいせ。左さ衛ゑい門もん治ち部ぶ丞じやう
 領りやう國こく參さん河かうへ。走そう歸き。空くう飯はんの。城じやうは。楯たて龜かめ。八はち郡ぐんの。民たみとも。安あん危きを。決けつめ。め。と
 又また大たい夫ふ属ぞく江かう瀧たき口くち。只ただ幾いく遍べん由ゆ陳ちん謝しゃ。過あや失しつる。紙しは。さ。せ。る。と。ひ
 衆しゆう議ぎ紛ふん紜ゆん。空くう人ひとな。輓わん頼らい是ぜい非ひの。境さかいは。迷まよひ。紙しは。又また死しく。せ。り。が
 此こゝの。由ゆ大たい息いきつ。今いま一いつ朝あさの。外がわと。本ほん國こくへ。遣けん還げんて
 謀ぼう反はんの。と。顯けんる。者ものの。虚こゝろを。實じつ事じと。か。り。悪あく名な遂すいは。言こと先せんが。け。ん。積せきふ。よ
 此こゝ度たの。禍わざはひの。例れいの。人ひとの。終つひむ。幕まくら下げ小せう向かうひ。火ひ紙しつけ。な。り。又また中ちゆう垣げんを。あ。居いて。進しんと。せ

此の誓言を成被露路せびりやあらんむらん。あらんむ幕下のおん各口。さまごこのり
 むのあらんむる。あらんむのまらんむる。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 なるはあらんむと密ののり。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 竊小愁祈の起る。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 るる助け成る。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 郎進ま北條殿の嬖臣。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 超我成頼小告。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 うら点段。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 麻の席成去んと。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 西人齊上座へ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 罪然脱れんと。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。

あらんむを。あらんむを。あらんむを。あらんむを。あらんむを。あらんむを。あらんむを。あらんむを。
 甲斐源氏なり。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 中々。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 綱ねん源三位頼政卿の孫仲朝臣の息男なり。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 志を二。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 甘ん。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 京師。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 志を世。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 御舎。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 君の武。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。
 彼此。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。あらんむのあらんむ。

秀衡没後、其子もつと政教を継ぐ。治五年、高館に在りて、
 との命、其妻を失ひ、はたまた又判官殿の頭取に進ませ、
 小の作、其の如し、却て谷中へ大軍を起させ、幕下を討せ、
 多の奉衛、亦劇驍なり。且、防られ、たか、年の秋九月、今泉の誦を、
 親属後教、数と、謂して、みる志、誓せ、ゆ、り。其君、知、
 律、みる、及、覆、く。他人、い、さ、る、骨、肉、う、り、も、切、あ、る、の、由、
 誓、せ、た、時、政、ぬ、幕、下、の、春、山、棟、梁、の、武、臣、う、り、く。其、
 あり、ある、欲、その、好、悪、を、さ、る、も、口、の、義、通、の、推、入、て、
 敷、せ、る、ひ、る、万、一、と、思、ふ、人、さ、る、も、聽、せ、せ、る、の、事、あり、
 正、る、人、又、仕、あ、る、物、体、さ、る、ひ、り、と、や。と、辞、
 へ、り、。律、果、べ、う、の、あ、ら、ざ、れ、ば、當、麻、太、郎、
 練、兵、の、志、を、今、又、は、疑、考、る、時、政、ぬ、幕、下、の、腹、心、
 媚、む、の、事、。幾、人、さ、る、こ、も、その、德、の、さ、る、に、
 ち、う、ひ、の、某、が、大、功、を、た、し、る、に、
 と、も、その、甲、斐、を、い、ひ、と、言、ふ、と、放、く、
 士、の、稱、を、ぬ、り、弓、劍、武、藝、の、人、さ、る、に、
 隨、て、その、器、め、の、あ、ら、ざ、る、に、
 せ、も、あ、ら、び、眼、或、睜、じ、廣、通、に、
 忘、ま、り、。傷、若、を、入、の、奉、勤、を、
 強、て、幕、下、と、追、伐、の、院、宣、
 練、め、く、救、べ、う、の、あ、ら、ざ、る、に、
 さ、れ、が、汀、渚、小、漕、舟、の、梶、原、景、時、ぬ、り、と、

濱の宿の
大評候
ひろもち
廣通
當麻と
説破と



真田本紀卷一

せし人の時政ぬ一何ある。その澄け分明る。そのまをそそる。藤原をせし。と藤原著しと此も騒が。景時とたふ尋常の倭人誰うと且て承るふべき。破破へ石あるとも。つまむ玉の如し。大奸の人の毒悪るれども。それの賢者の如し。利口の國家を覆ひに聖人乃ちあそく。和敷るまが。あまき智とて量知るべしと云ふ。といひとて。武弘怒るゆせば。過言入。瀧口廣通る。府屋と動さる。その願と破さるちて。本事と云せんと。服押の。朝よ。ひは掛まの。嗚呼。まを。と廣通へ。扇と取さる。ち向ふ。此彼面を。朱成汰は。緯い。と承る。た。景の。あま禁めよ。と主命。小橋太左衛門治部丞。重能廣光りる。共。又。同。か。推。隔。離。と。遙。引。と。け。く。辞。ひと。く。理。と。推。て。双。方。と。和。寛。く。武。弘。と。廣。通。も。ひ。成。低。く。め。の。り。且。く。範。頼。の。彼。あ。人。成。百。と。せ。く。舊。の。如。は。四。り。と。せ。今。汝。達。が。張。る。所。の。づ。き。も。理。り。ま。た。は。あ。り。給。と。是。は。我。音。成。遂。と。そ。

未定の理否と事ある其死不忠なり。擇みる主の爲と。わづら。穩便の後。隨く。そのもの。あ。あり。ぬ。べ。か。あ。と。ま。り。を。時。る。れ。べ。人。の。批。評。中。於。權。ま。あ。り。の。情。成。忘。と。て。欽。後。使。成。憚。ら。く。軌。持。成。排。ら。る。り。廣。通。の。似。げ。ら。く。や。且。武。弘。が。後。は。任。り。相。州。政。の。技。助。と。求。め。り。擇。成。ら。ま。ら。ゆ。く。後。ま。べ。り。會。の。旨。と。あ。ら。ゆ。ゆ。と。正。首。小。作。の。後。堂。あ。り。ゆ。べ。當。麻。の。面。目。力。み。あ。ま。り。て。あ。ら。ゆ。ゆ。も。若。元。介。と。名。を。廣。通。の。情。成。と。主。の。背。教。成。目。送。と。小。橋。太。左。衛。門。治。部。丞。の。と。あ。ら。ゆ。ゆ。げ。ぬ。面。と。あ。ら。ゆ。ゆ。の。づ。退。散。と。目。札。の。折。高。ら。る。長。袴。の。音。と。と。と。踏。鳴。し。し。食。り。る。共。の。退。出。け。る。と。あ。ら。ゆ。ゆ。の。富。原。大。部。長。藤。原。か。り。物。成。齋。と。時。政。が。尋。常。臣。たる。湯。嶋。木。二。進。か。宿。所。に。赴。た。件。の。成。成。成。で。ま。え。ん。と。あ。ら。ゆ。ゆ。の。主。君。の。愁。嘆。營。中。の。沙。汰。と。成。告。彼。成。同。く。只。營。救。と。云。求。め。る。木。二。進。の。眉。うち。耳。蒲。殿。の。あ。ら。ゆ。ゆ。の。主。人。の。日。束。と。り。肉。月。は。く。り。と。あ。ら。ゆ。ゆ。の。幕。下。乃。也。

けりし妻のけりしとけりしは、
 主入閑暇の折を伺ひ、あしうとて、
 當麻の斜るるに、
 参りて参別は、
 伽羅九と名けりし、
 知召は、
 事成厄を釋、
 七首と左右の、
 ふうとて、
 むつと君恩、
 さとひ、
 隔て又、
 寒、
 人、
 突合、
 心、
 る、
 此、
 な、
 後、
 る、
 麻、

けりし妻のけりしとけりしは、
 主入閑暇の折を伺ひ、あしうとて、
 當麻の斜るるに、
 参りて参別は、
 伽羅九と名けりし、
 知召は、
 事成厄を釋、
 七首と左右の、
 ふうとて、
 むつと君恩、
 さとひ、
 隔て又、
 寒、
 人、
 突合、
 心、
 る、
 此、
 な、
 後、
 る、
 麻、

かざりのり漏せし主のぬすのたは仇とならるるまのあは。おのが志は
かざりつゝこの餘のちちくく及びつゝ等思ふ人との當麻太郎は今
さし小靴を隔く癖と撥くまもつゝと強く同じく僅く候りたる
候りたる以て空く宿所へ入りつゝ。むつゝつゝとあやう。こゝ廣通と争ひて
ゆりつゝ密事結果さざ湯沸かひつゝ隨白地は君ふまゝに廣通も
なにか以伽羅丸の宝刀とむつゝ賜ふ事成らば又入見入りの
か。こゝちうせりのみ便宜候るものこゝ甲斐あるの面を
とてめめても難きなり。虎の穴へ入りつゝ後て虎室と獲るじと世の
所以あるもいづく密議とまゝんぬの時政ぬの意のどく。堂中へ
大床の下など小懸まゝに候ふまゝ候とあはし。こゝと候ふ小
候托出仕せむ。候るく出て堂門の背面を徘徊し。こゝと候ふ
八月十日の夜風雨は紛まゝに鎌倉の堂中小潜び入り。寢殿の床の下
耳代側へ穴規へ夜語のいもむけざりけり。こゝの夜直寢の近臣も
政が子江間小四郎長時結城七郎朝光海野太郎幸氏なり。頼朝卿は
弱冠ホは雙陸を打つ。齋一真入り。更更ととも外もあは。こゝ
當麻太郎の志のどとまゝに。些風邪に犯さるる小甲夜より床
の下中伏く。更は濕氣と受ふ。咳たせし止むと袖の口と掩つ。内
より頻り小せたり。そのこゝは。些時を。ゆづりけり。怪りや
下小癖者あり。といふは主後より。頼朝卿の潜中。小長時。おの
間へ御座候えさせむ。朝光幸氏。こゝに候り。床の
床と放せ。果し下伏するのあり。さうなれば。燭の光も
朝光の癖者等と。いひ。跳ぐる。と組む。こゝに當麻力士

八月十日の夜風雨は紛まゝに鎌倉の堂中小潜び入り。寢殿の床の下小形と屈し
耳代側へ穴規へ夜語のいもむけざりけり。こゝの夜直寢の近臣も北條時
政が子江間小四郎長時結城七郎朝光海野太郎幸氏なり。頼朝卿はこ
弱冠ホは雙陸を打つ。齋一真入り。更更ととも外もあは。こゝに
當麻太郎の志のどとまゝに。些風邪に犯さるる小甲夜より床
の下中伏く。更は濕氣と受ふ。咳たせし止むと袖の口と掩つ。内
より頻り小せたり。そのこゝは。些時を。ゆづりけり。怪りや
下小癖者あり。といふは主後より。頼朝卿の潜中。小長時。おの
間へ御座候えさせむ。朝光幸氏。こゝに候り。床の
床と放せ。果し下伏するのあり。さうなれば。燭の光も
朝光の癖者等と。いひ。跳ぐる。と組む。こゝに當麻力士

考 實は挑争の組伏るとも易かるべきと頭きてるゆおそそ志をこぼし
 逃んとく進退もよく途次先ひく備の敷と刃と向撥ハ幸氏亦く白ありて
 朝元又カと戮し床敷被んとするは長時ハ遠く走りわりの信と
 ころ長刀と取のぶこ當麻太郎ハ左の腕と心とるまざんと碎けけ地さんと
 瀆る鮮血とも小武弘ハ懐刀と抜出と長刀の柄と切わたり鳴呼こぞひ
 洩く湯島小賣らきととのせも果は朝光ハ刃と取らんとの不
 ちうて右の腕と搦揚まかあるらとぞもハん馳く左へ合まると吃掻きり
 死でひる瘡者自殺考くひ朝光幸氏怒又は正るうい小郎との吾們
 既より果く床敷被んとせしめは悲愴ハ疾と負しめハ合戦ハ夢を
 失ひぬと敦園ハ冷笑ひ鳴呼するをといつるゆりる和殿ホ力足て
 大事の瘡者ととり逃さんととぞひらこれハ浅瘡と負せしめるは搦

獲さしとく義時があるところといふ朝光幸氏は増しと多くと先輩ス
 政子時政ホは憚り多く再びと争は口瘡と咳死て馳て死骸と引
 出せ頼朝卿由間ちう立ちるがう喬さるる怪むべとの瘡者ハ生殺豫く
 鬼なる范於の老堂あわの當麻太郎武弘ありそ帯りし七首ハ
 又左曲ハ殿様の像見とく范於手来秘藏の名刀焼刃のむをひき
 こそハ伽羅丸と名けらまき又この當麻ハ力士なり弓前器機同様
 の術固より未熟のものを今との力と身と帯り対房の下め
 ころ裕とらひ恰といひと必頼頼が予を刺せんとて潜く
 頭をうり鳴呼危きる危うりと只管ハ嗟嘆しく疾視ハ眼の中
 気色ハ頭つらもあむるる色騒ぎあるは義時ホ三人の近臣を
 多不縛も速侍ハあそく内外齊一騒ぎとらるゆ寺敷のあらん

當麻 太郎 漫子 時政 奸之 陥



朝美新編卷二

九

とく。燭と妻の闇を照しく。書院度面築垣の蔭隈る。あされば而西の
 雲宵ひくまふ小杖の夜の長死もあらず。明しけり。あらずともとのる。然も休
 さるる。びと仰し。直寝せし。あらず。あらず。は。終て。な。あ。は。時。告
 こりけん。時。政。む。り。相。候。し。を。異。と。祝。し。を。頼。朝。卿。商。近。習。の。の。と
 遠。離。し。時。政。と。招。け。し。を。密。終。時。政。終。し。ぬ。ぬ。終。は。頼。朝。臣。の。憑
 き。る。當。麻。太。郎。の。病。著。の。は。と。や。う。し。密。終。の。定。る。の。を。の。小
 つ。ゆ。と。祝。し。び。り。一。日。二。日。と。暮。し。ぬ。小。忽。地。管。中。より。時。政。廣。元。が。連。署
 到。来。し。火。急。と。召。せ。ぬ。ひ。一。が。危。頼。の。忙。し。く。老。當。を。召。取。り。如。此。の
 事。あ。る。ん。吉。凶。定。る。る。後。も。武。弘。既。又。湯。嶋。は。秋。新。の。越。後。告。り。相
 別。政。殊。は。憐。れ。幕。下。又。執。事。も。勤。し。恩。免。あ。ら。ん。と。く。俄。頃。と。召。せ
 ら。れ。ぬ。比。自。然。び。ひ。と。他。の。の。の。の。宜。い。老。臣。未。眉。と。車。め。辞。ひ。と

あ。く。ま。う。は。中。君。曉。ま。ぬ。當。麻。太。郎。武。弘。の。勇。あ。ら。ん。知。日。謀。は。大。事。の
 密。終。を。奉。り。病。と。稱。し。く。龍。居。る。その。の。成。る。ぬ。え。ぬ。を。さ。は。し。ん。虚
 車。と。ま。り。の。其。危。し。ま。づ。武。弘。と。召。せ。ぬ。ひ。その。消。息。然。向。ぬ。否。それ。ま。も
 ゆ。り。當。家。の。危。窮。し。ぬ。あり。と。て。の。の。枉。屈。の。神。の。崇。へ。今。さ。ら。小。權。ぶ。死
 み。ち。な。れ。ぬ。を。救。ふ。ま。り。多。ひ。盆。中。の。魚。と。た。り。入。り。只。この。館。は。楯。籠
 り。危。と。決。め。ぬ。り。憑。り。ぬ。執。持。頼。朝。の。物。体。る。と。各。言。を。述
 利。言。と。現。面。を。犯。し。海。と。乾。頼。怒。れ。る。声。と。り。立。す。其。下。に。僻。事。と。れ。あ。ら
 ず。野。心。を。逸。者。の。舌。小。苦。し。ぬ。と。時。夷。の。皮。り。て。盛。る。る。の。猛。小。遠。言。と
 企。く。幕。下。小。對。し。り。弓。と。彎。し。要。せ。當。麻。太。郎。と。召。せ。と。仰。せ。て。忙。し。く。召。せ
 ら。ぬ。その。使。走。入。り。武。弘。の。宿。所。と。り。昨。夕。竊。み。ぬ。る。が。何。れ。た。の
 か。と。妻。子。も。あ。ら。ぬ。と。返。命。と。ま。り。せ。ぬ。危。終。の。あ。ら。ぬ。と。点。改。され。ば。そ

よまのりす。つむふ。このまのさうさや。執持の筈あり。この好意を

予が推量。一点違つ後。當麻太郎の昨夜より。執持の筈あり。この好意を

まるなる人君命。と召上り。此の駕を候。とゆくと。何れも踏踏と。あらん

と。俱この准由とせよ。と只。管いそ。びの。あらん。江花人廣通。と大夫。屬車。能の

言の。練り。び。死を。とん。く。り。共。嘆息。梓治部。丞。と。橋太。左衛門。八。主。の後。方。ふ

追携り。る。練。んと。掖。と。む。侍。袂。を。弗。と。揮。拵。ふ。凡。の。柵。の。画。障。子。を。推。開。て。後。堂。に

へり。多。く。又。せん。ま。と。る。り。けり。當。下。四。個。の。老。臣。ホ。の。席。次。の。座。坐。し。て。額。と

合。商。議。廣。通。重。能。へ。主。君。俱。く。當。中。へ。あ。り。ま。し。橋。太。左。衛。門。治。部。丞。の

あ。く。河。館。小。居。籠。り。く。夫。人。孺。君。と。守。護。せ。ん。と。内。外。の。用。意。總。て。目。あ。は。せ。さ。り

けり。か。ら。り。は。は。廣。通。の。多。く。あ。り。けり。む。と。り。宿。所。小。退。た。く。その

あ。三。三。廣。光。と。招。け。り。せ。蒲。殿。俄。頃。は。當。中。へ。あ。り。ま。し。主。君。の。正。直。臣

あ。が。諫。言。お。ち。ち。ち。告。す。と。さ。て。い。ふ。や。前。車。の。覆。る。状。ん。と。致。言。さ。る。後。車

い。ん。で。り。全。う。へ。た。判。官。殿。の。滅。亡。と。俗。め。の。梶。原。景。時。が。証。言。せ。し。と。い。ふ。と。彼

人。の。い。ぬ。あ。る。べ。く。な。ら。ば。憎。ま。り。執。持。の。枝。と。伐。翼。と。對。外。戚。の。威。勢。を。檀。小

せん。と。て。功。臣。の。う。い。つ。が。さ。ら。し。御。連。枝。さ。ふ。小。わ。の。如。く。冤。枉。と。ゆ。さ。せ。め。ふ

具。非。も。あ。り。世。の。形。勢。に。幕。下。の。天。の。許。さ。る。名。將。あ。ら。ん。と。も。この。い。ぬ。あ。る。と。後

つ。せ。め。の。ぬ。へ。千。慮。の。二。失。今。さ。ら。ぬ。ち。難。く。ぬ。あ。り。あ。ま。り。あ。る。痛。い。う。る。吾。等。只

その。性。直。く。や。り。ま。る。か。人。の。奸。智。を。測。り。ぬ。と。い。ふ。は。出。ま。さ。る。が。あ。ら。ん。と。い。ふ。の

日。も。あ。ら。じ。と。今。と。や。め。ひ。決。め。り。君。辱。れ。ぬ。お。と。死。さ。る。固。く。人。臣。の。道

己。の。重。能。り。共。に。何。れ。や。と。も。あ。ん。俱。く。先。途。を。さ。ん。と。い。ふ。と。あ。ら。ん。と。い。ふ。の。因

と。と。か。り。あ。り。ぬ。討。め。と。向。た。れ。く。夫。人。孺。君。と。捕。ま。る。ん。橋。太。左。衛。門。治。部。丞

武。略。勇。敢。せ。ぬ。あ。ら。ん。と。亦。忠。義。の。老。當。な。ま。ら。阿。容。と。い。て。遠。く。人。を。馳

く。討。め。引。受。く。聖。時。の。防。死。戦。か。と。も。寡。と。り。く。衆。と。敵。に。主。役。有。一

命を預さるるも亦勞し切はるる夫人幡太の前第一の切臣なる安
 連藤九郎盛長やの息女也てやうやうせむ討ひの軍兵迫入るとも情あつた
 まづうらまひの只むりたるたの孺君白鳩丸のうへに今茲九才なるをひていとも
 伶俐くやうやうの生拘らむひるがち命危うなる汝達夫婦のこの黄
 昏小孺君のちん俱しく竊ひ下野へ走ると足利なる学校の学頭翁長老
 外伯父也てせむせむ懸せむは便宜なりん今アそあまのちく小吾君逆心
 ちりやうと幕下みづく時をせむる蒲殿の郎君へと廿ふ志するもの
 その度へはせる外口はうらえ軟きふが志むる程るべしと勉よと説示
 志す准信の沙金五百両を孺君にたてまるといひむはうらふさうもけは廣
 光さうやうこと成とび言うけむりひひぬ志すあまると家兄の才器入と志る
 機不臨を變は志し謀ひと志する其いうてう及ぶべし願ひ家兄孺君の後見と

志すひ孫某の大敵のちん俱ふアそまらめといひ廣通に成掉りこの期をなひて
 私の慈意を逆らふ不忠なり程安杵旧が故事と志すびや死の易くして生
 難一宜小ゆくのちんも忠義はぬるれ何の成何の推辞とあらん
 苟も老臣なり主君の先途は後ん汝は又家嫡はあらん郎君のちんも速虎口を
 脱まよ官途は兄也も又あつく職分あり兄は亦小孺王かてく實の兄小代りは
 ぞくといそむる廣光道理の通らるるぞくも涙さうぐむく正にあらなくと
 件の金を受取る程アそあま守ゆの範をいひさせむひぬと私を罵れは後れは
 けりよと廣通の遠く衣裳成整へ馬は閃りとうち跨まむ後れりものども十餘人
 列成素しく去去なり是今生の別とて目送る背は力むむらりの秋の日もまた
 短くくそ入相の聲の諸行を常と告ぐり度にあけたとこり
 あらうとく哀なりよそも病人廣通の去る年の夏の比最愛の妻を去りて

この後今小後妻と娶つて兄弟才莫逆のしるも廣光と同居させ亡母の姪あり
 ける廣光井との女の子とあり。廣光小妻のしる。家事をも大く任ぜしとせさる
 後、廣光の兄が忠義を他小せし。と多く女房、廣光井小縁由を説き分し。
 夫婦、竊小啓行の準備隙をた、瞞黒やがく君所へ参りし。さそのやね、仲小備
 殿の出仕と祝しあり。ささばこの法良井ハ女の立里あると一此より。幡太の女
 給事し。奥さるのう入大くつたさ。ささるゝのわろ。小廣光が妻小
 ろのつても。さあとのととりくまじ。今宵も誰が怪む。泣く法良井ハとあり。して
 你母冊の女房小を説欺り。白鳩丸とそのは。竊小し。をさる。廣光と後園
 たる。樹下蔭小待つけし。おん痛く。おんとも。声立り。人もやさる。内さる。せ
 多へと念ん。後より抱きとり。左の口と推詰り。右のく。小狭。枝を
 抱きし。筑末垣。乘踰り。内。と。法良井ハ下拵の初引解。松よ
 投うけ辛く。外面より立ち。走る良人の後小跟。小石。跪。背。肩。小其
 礼とも。と。喘。十町。あまり。落。り。け。し。く。二三。廣光。ハ。人家。遠。離。る
 驟。道。縮。塚。の。藁。う。ち。敷。く。白。鳩。丸。之。居。を。り。夫婦。遙。く。額。珠。著。何。と。わ。や
 上。と。ど。く。竊。小。し。を。り。し。く。ち。驚。せ。り。ひ。けん。憎。し。と。思。召。さ。ん。か。く。ま。く
 異。なる。おん。俱。せ。その。麻。の。箇。様。と。おん。父。君。の。大。厄。難。當。家。の。艱。緯。逼。迫
 十。ふ。九。ツ。脱。ま。さ。く。た。顛。末。と。告。め。ら。せ。廣。通。が。ひ。つ。つ。り。下。毛。野。へ。と。俱
 なる。緣。由。と。ま。う。は。ゆ。む。ぞ。白。鳩。つ。づ。ら。は。ん。又。う。の。い。と。危。く。母。の。い。と
 危。く。異。なる。この。や。う。ち。は。丸。の。ま。ま。と。何。め。り。せ。ん。と。く。り。か。へ。れ。廣。光。と。ひ
 は。か。く。立。た。り。三。三。法。良。井。左。右。より。か。ち。推。ま。え。背。と。拵。賊。悋。悋。
 ち。せ。ん。人。の。ま。た。は。ぬ。孝。心。い。と。う。ま。り。く。お。ぢ。め。り。ま。さ。り。と。して。王。口。込。ハ
 定。ら。ず。ま。じ。ひ。ハ。大。刀。祿。も。又。奥。入。り。恙。わ。く。と。な。ま。る。し。と。慰。め。ま。う。は。夫。婦。が

法良井の巻

貞とさるるかうさるるち膳り。まろぬぬといふのさるるさう人も母う人も
 うるまひさるる丸も又何如へゆくべし。そ城さるるくおおく走らば廣光が
 僻るつかるらん。かくても汝違おなりや。と年才あつてせ賢くも結り多る
 廣光ハあつて小膝と丁と鼓津旋室お預りえ。あつたあれとも禍も
 こまこと未度は遊ばし後悔其知よとらうじに異めく帰館あつて祈る
 かひある幸へ廣光が庶勿心の罪何とも御付たし。元期の人ふいとや
 とまら清良井ハ坐は涙さうづき。今宵のる紙幡太の方又告まうさ
 とらひ侍りしがさるる名残と惜ませるらん。おん歎死の程痛く。いつ
 ぬらひのまらひの紙とよらるるあ紙鬼ゆくと。正なるは雨多も忠
 義の爲と知られさる。そのは竊と。走まよけりと。彼あつた吾侪
 却り紙憎ても憎倦びぞおぼさるめ。ありとせあへと。學とよるる其

方と伏拜め廣光声と激しく。うらた周薄いふひあらんや。さるる君
 所へる海辺なり。夜ともふいぎまらん。と叱懲らん。白鳩丸とぬらび賺
 ありとらへ。楚と脊肩ひく立あがれ。俄頃又彼あつた周の声矢叫の立日
 戦馬の蹄。ひふとる如く。置塵さる。廣光信と見えり。地方も正しく
 濱の宿原未とや討ひの軍兵推よせと。疑ひる。あつた敵の安
 穩るは。果敢やく囚さるひ。飲か兄るが。着入ら。先見誠一毫
 違つた形なり。世のさるる。月日ハ。紙照さるや。と歎け共。流
 良井も。あるは。とり小伸あがり。年未御蔭と蒙りし。奥さる。い
 多らん。あつた時めさせ。く彼溝の梁とも。力をた。く。あ
 りの飛外。さるるめ。悲し。と。唧々袖の雨る。く。狂火。忽地。天
 白も。ころぬ。野干玉の鳥夜と照ら。く。いと。明く。煙。又。噴。び。方。を。焦。ら。

幻の叫ぶ声阿鼻焦熱の彷彿あり。廣光まほしく嗟嘆しく。さういふ
 乱入の火と放せしと覚ゆるは勇むとわかつたが走久り。あまの電
 討死せん。そまもあつらひ弓矢前の道は鮮きまじく。いとところあまの
 あう。捕られるが悔ともゆるし。是をおぐわたり。とあひ捨る。ゆきま
 すとまふ白鳩丸へ廣光が肩うち鼓た屋形のくま異かた。人妻猛火



江三廣光



白鳩丸
 幻主を抱く抱く
 廣光毛圓へ走る走る

顔まふ因たのゆる紙合戦ありと汝達ハ入つ知つたつらむやかせし。焦
 燥の自然とゆる智度勇敢現旗檀の二葉より。廣大ふやうく。あまの電
 丸の意人の物具剥んと野仗三人樹立乃蔭より頭をこけ脱
 廣光が左右の腋より楚と狙む。あうらるる。とあひ釋死足
 礮と踏る。蹴らまじく。奇く輾轉起んとまら紙起し由立に元とあひ

駭く。伴の二人。破伏あり。残る一人。立ちり。まきふ。刃と。うら。振走りくる。や。と。廣光へ。左ひ。小彌君。推揚。と。右ひ。血刀。閃。兩三合。下。こと。なる。る。大。刀。風。野。伏。が。頸。残。桐。一。葉。地。上。小。礮。と。落。ち。ら。ま。く。骸。へ。後。小。倒。し。る。危。かり。し。と。淡。良。井。ハ。懐。紙。と。さ。う。ひ。り。鮮。血。と。拭。へ。ば。そ。う。さ。う。の。刃。と。鞘。小。お。さ。め。く。も。素。色。若。く。死。世。間。と。ま。の。が。と。ま。れ。ど。月。夜。よ。り。雲。ひ。く。ま。り。死。猛。火。の。光。り。小。柏。の。鳥。立。さ。ら。と。死。野。寺。遙。又。音。ひ。た。る。鐘。も。の。る。の。の。響。道。裙。こ。け。ぬ。く。と。夕。露。の。葉。の。名。小。ゆ。ぐ。下。毛。野。足。利。投。て。落。く。ゆ。く。時。小。建。久。四。の。年。秋。八。月。下。旬。な。り。傳。ま。る。阿。三。郎。が。十。才。の。と。ま。は。ま。る。く。渠。へ。滿。福。の。山。寺。み。く。統。書。み。習。せ。し。比。た。り。べ。し。

村田



